

**1 生徒の引率**

会場へは、教員が生徒を引率する。第1試合の学校は、**感染症対策と練習時間を考慮し試合開始1時間前に到着をする。**  
第2試合以降については、**試合開始予定時刻の1時間前に到着をする。**

**2 到着の報告とチーム受付**

部長(教員)は会場に到着後、本部にチームが到着したことを伝え、**①参加同意書 ②健康チェックシート(学校)を提出する。**  
※①は大会最初の試合時のみ

**3 攻守の決定**

監督と主将は、正式な試合用ユニフォームを着用し、**試合開始予定時刻30分前に**、所定メンバー用紙(控え選手の氏名と背番号を記入したもの)を持参する。メンバー交換後、競技委員、審判員の立ち会いのもと攻守を決定する。その後、競技委員と審判員からグラウンド特別ルールや注意を受ける。攻守の決定後、先発バッテリーは、ブルペン等で前試合の5回終了後、または試合開始から1時間30分を経過したら、投球練習をすることができる。捕手はすべての防具を身につける。また、シューズケースなどの荷物は持ち込まない。

**4 前試合の終了後(入場)**

抽選番号の若いチームが1塁側ベンチに入る。部長はベンチ内に前チームの荷物がすべてなくなったことを確認してから荷物を入れるように指示をする。(用具にはチーム名を明記するようにする。)ベンチがすぐに空かない場合は、ベンチ横のファールエリアに荷物を仮に置いて、練習に入る。

**5 試合中の服装**

選手・監督・コーチは同一意匠のユニフォームを着用する。監督・コーチは黒一色のスパイクまたはアップシューズを着用する。試合前や試合後の挨拶については、ベンチ前に並ぶ監督・コーチや選手を含め、グラウンドコート等は脱ぎ、ユニフォーム姿となること。試合中に選手の交代などでグラウンド内に入る監督も、グラウンドコート等は脱いでユニフォーム姿で出る。また、選手や監督・部長・コーチは必ず帽子を着帽する。

**6 試合終了後**

ゲームセットの後には、部員の相手監督への挨拶やエール交換などせず、速やかにベンチを空ける。なお、勝利チームは、できるだけ早くグラウンド整備、ライン引き等を行う。

勝利チームの部長は本部にて次の試合の確認をする。

**7 指導内容の徹底**

○試合前の用具チェックについては、バットのへこみや傷、グリップテープのはがれ、ヘルメットの傷、捕手の防具の点検、また、全てにおいてJSBBのマークがあることを確認する。適さない用具等については、試合中は本部で預かり、試合終了後に返却する。

○試合前の練習は登録された選手のみで行う。ただし、ノック時には補助員として生徒を2名まで追加できる。補助員は必ずユニフォーム、ヘルメットを着用する。

○試合前の打撃練習はトスバッティング、バントのみとする。

ハーフバッティング、フリーバッティング(M号球以外の道具を使用しての練習を含む)は禁止する。

○シートノックは競技委員会の取り決めに従って行う

○投手が投球練習をしているとき、次打者はホームベースに近づかない。ネクストバッターサークルで待ち、捕手がラストボールを送球したら、速やかにバッターボックスに入る。

○打者がサインを見るときは、バッターボックス内で見るとする。

○攻守交代は駆け足で行う。

○チェンジの際、ベースコーチは自軍の円陣に加わらない。ベースコーチは、ボックスを出て指示などをしない。

○ボールを持たない捕手が走路上に立つなどのブロック行為をしない。(オブストラクションとなる。)

※ボールを保持してから、走路上に移動してタッグすることはよい。

○一塁へ向かう打者走者は、スリーフットレインの中を走る。ラインの内側(フェアゾーン)に切れ込んで走ってはいけない。

○打者は捕手の捕球、送球を妨害しないこと。打者の行為で捕球、送球を妨害したと審判員が判断したら守備妨害を宣告する。

○打者は、よけられる投球に故意に当たるような行為をしない。

○野次や、相手の不利を招くような言動を慎む。応援者も含む。

○審判は太陽の光で捕球が困難と判断した場合、守備につく外野手が野球用のサングラスを使用することを認める。

○部長、監督、コーチのサングラス着用を禁止する。

○メガホンは監督のみが指示のために使用してよい。ベンチ外では応援の為のメガホン使用を許可するが、メガホンを叩くような応援はしない。なお、会場によっては吹奏楽やメガホンを使用できない場合がある。